

愛知県芸術劇場 (公益財団法人 愛知県文化振興事業団)

〒461-8525 愛知県名古屋市東区東桜一丁目13番2号 TEL(052)211-7552 <https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/>

主催:公益社団法人日本芸能実演家団体協議会・愛知県芸術劇場
文化庁 統括団体によるアートキャラバン事業(コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)「JAPAN LIVE YELL project」

デザイン・印刷:tami graphic design.

発行:2023年1月



JAPAN LIVE YELL projectは、コロナ禍からの文化芸術活動の再興を支援するため、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会が、文化庁の補助を受け、全国で展開するプロジェクトです。2022年度の当地域では、東海3県の劇場と連携して圏域19か所でベビーシアターの公演等を行いました。新型コロナを端緒に始まったこの取組みを、今後も持続させていくことがとても大切と考え、報告書を作成しました。舞台芸術に関わるより多くの方とこの知見を共有できれば幸いです。

愛知県芸術劇場 館長 浅野 芳夫



1. JAPAN LIVE YELL projectでベビーシアターを

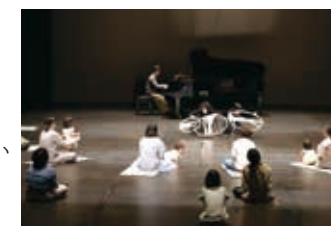
東海3県の劇場と連携して「JAPAN LIVE YELL project」を実施するにあたり、どのような演目が相応しいか。愛知県芸術劇場の呼びかけのもと、複数の劇場からベテラン職員が集まり、オンライン会議で話し合いをしました。ジャンルや制作方法など、様々な観点で議論がなされる中、鑑賞する対象を“ベビー”に絞り込むことによって、参加する劇場のベクトルが揃いやすくなるのではないか、という考えに収れんされていきました。

そこで、0～24か月未満の子どもとその家族のための無言語パフォーマンス「ベビーシアター」を取り上げることになりました。コンパクトな作品であるため、お互いのコミュニティを干渉することなく、数多くの劇場、数多くの地域、数多くの団体がネットワークを構築あるいは強化しながら、多種多様な地域ニーズや課題を拾い出すことができると考えました。

「ベビーシアター」上演作品

『まるまる』

“まる”が生き物のように動きます “まる”が風景のように広がります
 “まる”から音が生まれます “まる”から物語が始まります
 イマジネーション広がる“まる”の世界をピアノの演奏と共に楽しみください
 作・演出：川原美奈子 出演：朝比奈緑・川原美奈子 ピアノ：浅野加織



『MARIMO』

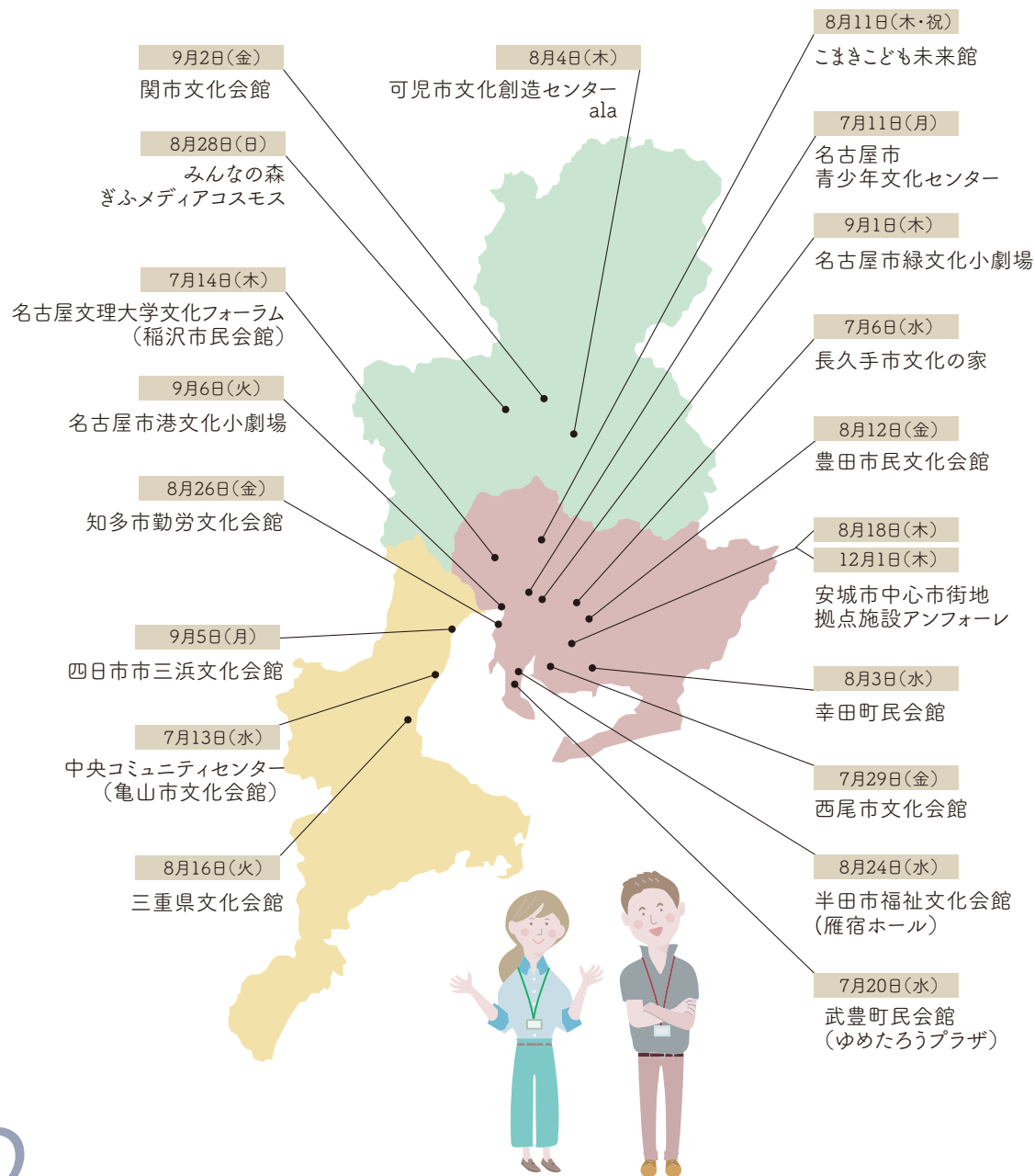
風、森、水、光…自然と繋がらるく育つ、毬藻。
 マリモが浮いたり沈んだり、ころころ転がったり丸まったり、
 マリモの世界で遊びましょう。

作：朝比奈緑 演出：Jackie E.Chang 出演：和田幸加・鷺見裕美



2. プロジェクトスケジュールと実施施設

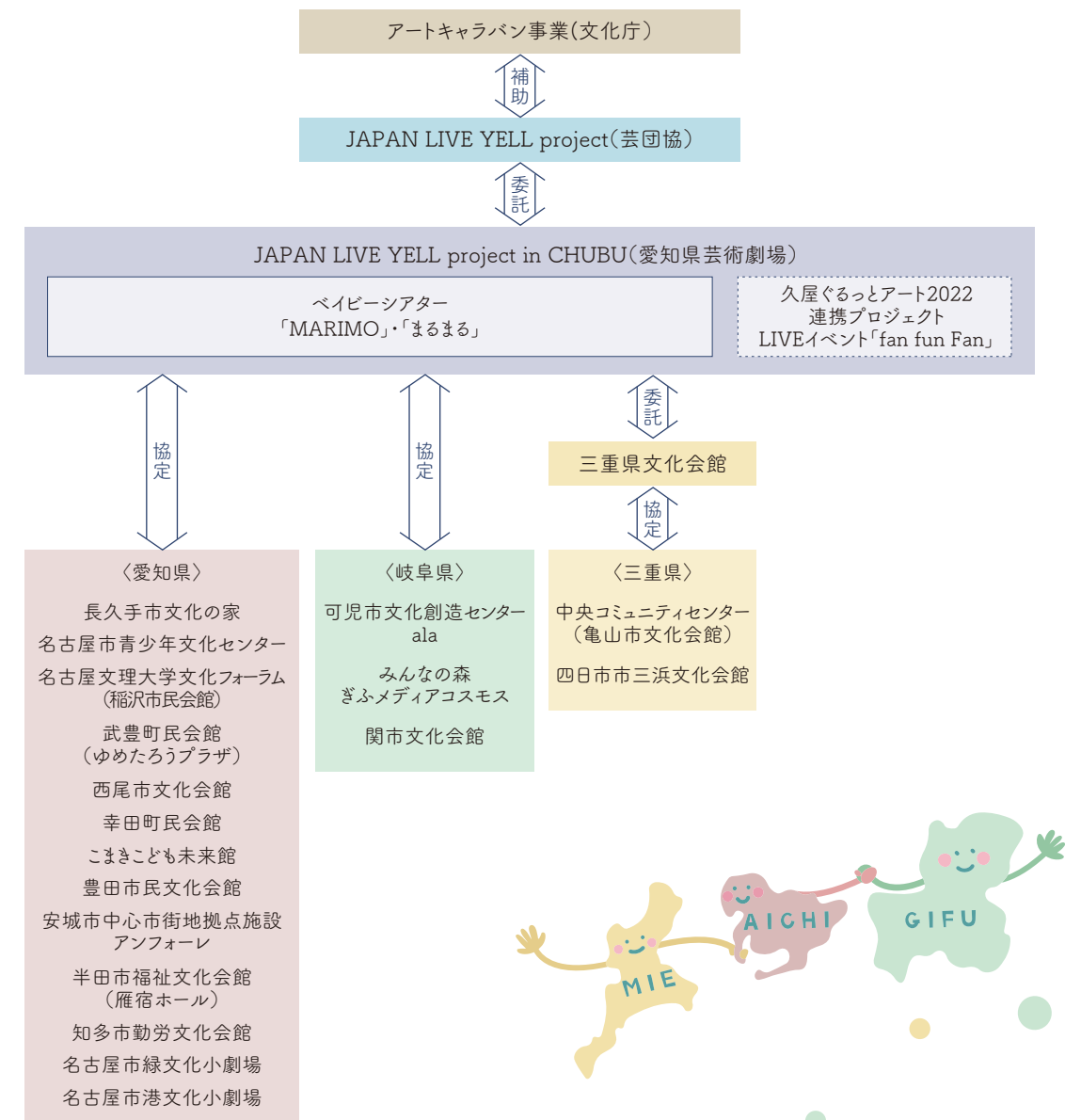
- 2022年3月 文化庁による助成事業の公募
 日本芸能実演家団体協議会(芸団協)による参加地域の取りまとめ及び文化庁への申請
 愛知県芸術劇場による芸団協への参加申請及び参加地域としての決定
- 4月 芸団協が文化庁助成事業の採択を受ける
 愛知県芸術劇場によるベイベーシアター公演実施団体の取りまとめ
- 5月 公演実施団体を対象としたインリーチ事業の実施
- 7月～12月 ベイベーシアター公演の実施
- 12月 公演実施団体による振り返り会の実施



3. 東海3県において、持続可能な劇場ネットワークをつくる

愛知・岐阜・三重の東海3県は、中京圏や中部圏とも呼ばれ、経済的にも生活的にも同じ都市圏内にあります。舞台芸術ファンも圏内を流動することから、圏内劇場同士の情報共有は重要で、劇場職員間のネットワークが20年以上にわたって(組織化されているわけではありませんが)「緩やかに」構築されています。しかし、事業連携は始まったばかりである上、県をまたいだ事業連携は多くありません。

今回は、試行的に、下図のようなネットワークを構築し、劇場職員向けのインリーチ公演を実施するなどして、交流の機会を設けながら、ネットワークの深化に努めました。分散している複数のハブ劇場をつなぎ、「自律・分散・協調」を基本に、お互いを補完・相乗しあう持続可能なネットワークづくりを目指しました。

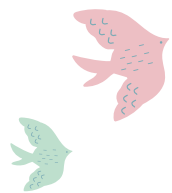
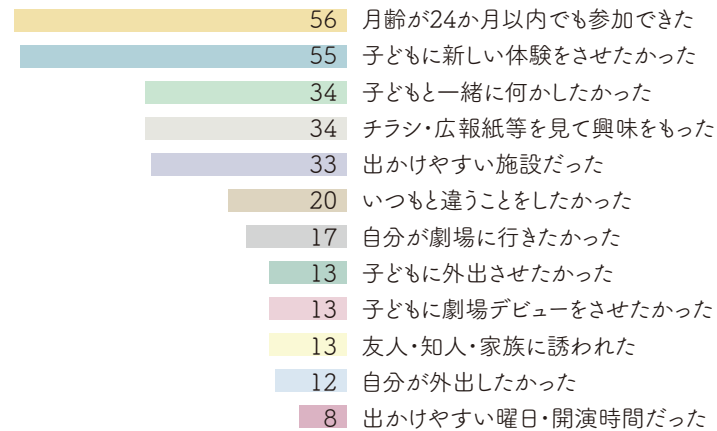


4. 参加親子の声を聞く

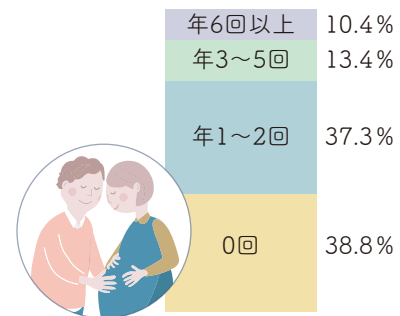


今回の公演に参加した理由をお聞かせください。(複数回答)

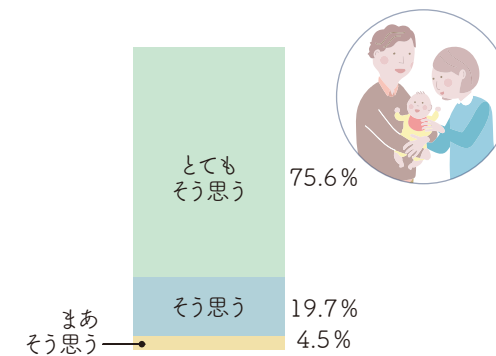
(単位:件)

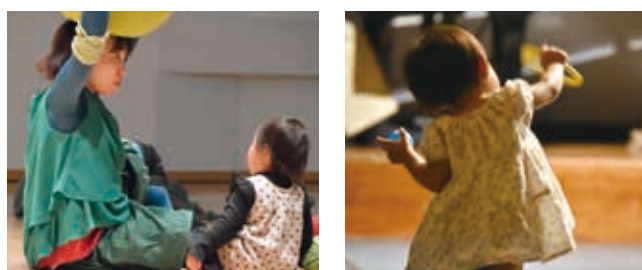


出産前は舞台・パフォーマンス等に年に何回程ご覧になっていましたか?



ベイビシアターに参加して、子どもと一緒に他の公演に行ってみたいと思いませんか?





劇団うりんこからのコメント

コロナ禍3年目、子育て中の保護者は安心して観劇できる場所を探していました。「参加できて良かった」「子どもの新しい一面を発見した」「リラックスできた」等、公演後の感想からはベイビシアターの意義と必要性を強く感じました。と共に、課題発見と解決の日々でもありました。床面の清掃や危険防止策をお願いするにあたり、会場毎に違う環境を事前共有しきれない部分もありました。しかし担当の皆さんは地域を越えて相互連携し、ブライトスポットを見つけ出し、多様な問題を人力やシステムで臨機応変に対応してくださいました。今回、今まで足を運ばなかった地域に作品を届けることができ、意義と必要性を共感して頂けるたくさんの方々とお出会ったことに感謝いたします。

川原美奈子さん

子供の視線や興味はどこに向いているのか、じっくりと観察できたり、じっくりと反応や表情を見る事ができて楽しかった。



子どもは、目を見開いて、聴いて見て…とても集中している様子で、連れてきて良かったと思いました。パフォーマンスが終わったころには、眠たくなくて、、、相当、パワーを使いながら感じていたようです。

あれやってみましょうこれやってみましょうと言われるのではなく、演技から作られる空間の中で、娘自身が感じて考えられるというのが珍しい体験でした。

5. 参加施設の声聞く



道のり～実施の声掛けから公演日まで～

一般財団法人こまき市民文化財団 林 真智子さん

愛知県から3月にお声かけいただき、「実施時期は原則7月～8月」というスピード感を必要とされるものでしたが、連携して行う貴重な機会であるため、当財団も参加させていただきました。対象を乳幼児に特化した事業実施は初めての試みでしたが、実演を交えた事前説明会や詳細な情報提供により、会場選びから広報までスムーズに進めることができました。特に会場については、乳幼児が床を這っても衛生的に問題がないことを最優先し、子育て支援の中核施設であり、日々小さな子ども連れの家族が多く来館する「こども未来館」のクラブ室を使用しました。同施設にはポスター掲示やチラシ設置の協力をいただき、その効果もあり、予約開始後まもなく定員に達し、キャンセル待ちも複数出ました。この事業を通し、財団として市民の新しいニーズに触れることができました。

公演がもたらした効果・影響に確かな手応え

可児市文化創造センターala 澤村 潤さん

今回の演目「MARIMO」はタイトルがもつ響きのように水や風の音が心地よく響き渡る不思議な空間で、マリモの妖精ようになった俳優らが赤ちゃんと適度にコミュニケーションを育みながらその五感を優しく刺激していきます。そしていつのまにか赤ちゃんらはまるで妖精たちのようにマリモと遊んだり、動き回ったりとその世界に自然と溶け込んでいく作品です。参加した保護者からは「子どもへの良い刺激になるし、何より普段身動きの取りづらい親の良い気分転換になります。」との感想を頂きました。コロナ禍で親の育児ストレスが増している状況だからこそ、今回の体験がより一層のリラックス効果を生んだり、保護者同士のつながりの場になったりと、赤ちゃんの変化と共に様々な相乗効果を生み出しました。乳幼児を持つ親子は社会的環境から劇場での鑑賞機会が殆どありません。その様な方々にこそ公共劇場は手を差し伸べる必要があり、本事業はその観点から次へと繋ぐ足掛かりになったと感じます。



コロナ下の開催で、多方面に得られた会館としての経験値

知多市勤労文化会館 榎野 元昭さん

知多市勤労文化会館では、「MARIMO」2公演をおこない、各回10組の定員上限の親子をお迎えすることができました。コロナ下での開催にあたり、デリケートな乳児のご来場があるということで不安もありましたが、専門性を持った劇団や愛知県芸術劇場のスタッフのガイダンスのもと、会館としての経験値を積んだプロセスとなりました。各団体との連絡時におけるレスポンスも早く、チラシ作成などにおいては指示も細やかで、非常時における公演の運営という意味だけでなく、公演制作全般において得るものが大きい事業でした。また、当館においては10/10助成がなければやりたくても到底実現できなかった種類の事業でもあり、当日ご協力いただいた地元のおやこ劇場のみなさんともども夢の叶った公演でした。ありがとうございました。



三重県内の劇場ネットワーク強化と今後への期待

三重県文化会館 堤 佳奈さん

三重県内で津、四日市、亀山の3会場にて公演を実施いたしました。全額助成や幹事館が助成事務を取りまとめることで、費用面、労力面でも市町の負担を最小限にすることができ、中核劇場として県内の会館にも声を掛けやすい企画でした。また、連携劇場とは普段から情報交換を行うなどつながりのある会館同士であったため、各館の事情もフラクに話し合え、職員同士の交流も深まったように感じます。今まで舞台芸術鑑賞者の範疇から外れていた赤ちゃんたちをメインターゲットに据えた「ベイベーシアター」は、創客の視点から非常に魅力的である一方、安心・安全な環境づくりが必須でデリケートな事業です。そのため、ノウハウ不足などを理由に一会館だけで企画をするにはハードルが高いのですが、中部地方→県→市町という今回の仕組みによって、市町の職員が運営ノウハウを学び、次につながるきっかけとなりました。





6. 久屋ぐるっとアート2022 連携プロジェクト

久屋(栄北)エリアで開催されるアートフェスティバル「久屋ぐるっとアート」と連携するプロジェクト。11月5日(土)・6日(日)に、音楽、ダンス、演劇等を気軽に“ぐるっと”楽しむLIVEイベント「fan fun Fan」(ファン ファン ファン)をHisaya-odori Parkで開催しました。

LIVEイベント「fan fun Fan」出演者からのコメント

期間中の会場には、様々なジャンルの音楽の生演奏が流れていて、日本ではなく海外に行ったような気持ちも味わえました。またとても気持ちの良い晴天で、家族連れ、カップル、若者等、様々な年齢層の方々が休日を楽しんでいらしゃり、通りすがりの方々も足を止めて聴いて下さいました。音楽と人々の笑顔が溢れているとても素敵な雰囲気の中で演奏させていただき、奏者が音楽を届ける意味を再認識できました。

岡林和歌さん/サクラパー(クラリネット奏者)



「紙芝居」というものが老若男女を問わず、人と人とを結びとても優れたコミュニケーションツールであることを再認識いたしました。この「紙芝居」はすでに消えてしまった文化ではなく、むしろこれからの時代に人々に必要とされ喜んでもらえる可能性を持っていると、当日の心地良い風を受けながら実感しました。もちろんそれを叶えるためには、もっともっと経験を重ね、より一層技を磨いて行かねばと考えております。川上竜生さん/マーガレット一家(紙芝居師)



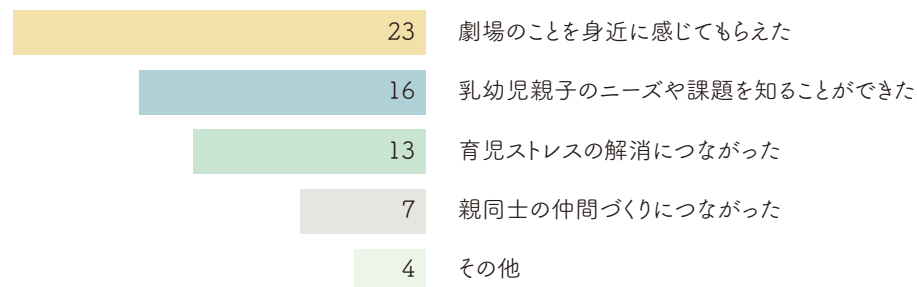
今回は、助成事業というサポートのお陰で、プロのタップダンスとドラム、パーカッション、キッズ、そして体験会、と様々な形でタップを披露することができ、地元で活動するアーティストの励みとなる貴重な機会となりました。また、不特定多数の方と触れ合える屋外ステージでのライブは、観る人、そしてパフォーマンスする双方にとって、素晴らしい時間であったと感じています。

サカイダゴージさん(タップダンサー)



乳幼児親子向けのプログラムを劇場・音楽堂が実施することについて
どのような意義を感じましたか(複数回答可)。

(単位:件)



乳幼児親子向けのプログラムを実施して、
どのようなニーズやその家族が抱える課題を感じましたか(複数回答可)。

(単位:件)



JAPAN LIVE YELL projectが地域に与えた影響について(自由記述)

- ・劇場が乳幼児親子向けに事業をやることで、単なる鑑賞型事業をやるだけでなく、色々な人が関われる事業があり、身近な施設であることを印象付けることができた。
- ・会館で乳幼児向けの公演を実施しているという市民の視点が少なからず生まれた。
- ・「地元の劇場は満席だったが、この会場は空きがあったため」という理由で市外から当館へ初めて来場される方もおり、ツアー形式で実施することにより、遠方からの来場者創出につなげることができた。
- ・参加された母親が小さな赤ちゃんが真剣に観劇している様子に目を見張り、一緒に楽しみ、癒しや安らぎの体験となった。その体験を間近で見ることができ、乳幼児とその親を対象とした劇場公演の可能性を発見できた。



7. 過去のJAPAN LIVE YELL project



【2020年度】

- ・あいちオーケストラフェスティバル(愛知4会場)
- ・和太鼓集団 志多ら 和太鼓コンサート鑑賞会
- ・劇団うりんこ「小学校は宇宙ステーション」
- ・劇団うりんこ「学校ウサギをつかまえろ」
- ・ナゴヤ大文化まつり
- ・月灯りの移動劇場 Peeping Garden(愛知3会場)
- ・久屋ぐるっとアート2020連携プロジェクト など



【2021年度】

- ・あいちオーケストラフェスティバル2021(愛知3会場、岐阜1会場)
- ・トライアド ダンス プロジェクト「ダンスの系譜学」
- ・鈴木竜トリプルビル
- ・久屋ぐるっとアート2021連携プロジェクト

